

ミニ集会の 花が咲く！



岸本周平
Kishimoto Shuhei
中央大学客員教授

<http://www.shuhei-k.jp>
<http://blog.goo.ne.jp/shu0712>

落選中の候補者にとって、街頭演説も大切ですが、後援会活動の花は何といっても「ミニ集会」です。5人から10人くらいの規模で、1時間程度じっくりとお話をさせてもらうのが目的です。これくらいの人数ですと、親しい感じでお話ができますし、参加していただいた方のお名前とお顔を覚えることも可能です。

しかし、場所を提供していただき、人を集めてくださる方を探すのが大変です。これまで、浪人生活のほとんどの期間で「ミニ集会」はできませんでした。最近、ようやくですが、少しづつ「ミニ集会」ができるようになりました。

が終わってから集まっていたので、長々とやるわけにはいきません。1時間を少し越えるくらいが限度です。

とは言うものの、私の方は話したいことが山ほどありますので、ついしゃべり過ぎて反省ばかりです。また、その日の調子によって、皆さんと一体感を持って上手にやれる場合と、肩に力が入ってすべる場合など、さまざまです。寄席やお芝居と同じで、観客と演者の共同作業の部分もあるのでしょうか。

ミニ集会でありがたいのは、基本的だけれども本質を突く質問をいただけることです。「私は、政治の方は素人なんですけど……」で始まる質問ほど恐ろしいものはありません。私や民主党にとって耳の痛い質問の場合、ムキになって反論してもいけません。「おっしゃることはわかります。そのような考え方もありますよね。でも、私は〇〇〇とえます」。

相手のお話よりもできるだけ短い時間で、ポイントだけ論理的に説明できれば理想でしょう。しかし、そうは問屋がよろしません。今のように複雑な世の中では、一刀両断できるような問題はそんなにありません。その意味では、小泉元総理の単純明快なワンフレーズポリティクスは天才にしか許されないような気がします。最近わかってきたことは、「これまで自分がやってきたこと」を語るよりも、

地味でもよいから「これからこうしたいという夢」を語った方が好意的に聞いていただけるようです。

ミニ集会が終わって、「何だか一生懸命だし、良い人みたいだから、岸本周平さんを応援してあげよう」と思っていたかどうか、1時間の真剣勝負です。毎日、このような経験を積み上げながら人間力を鍛えていくのです。ですから、政治家になるのは大変なことなんです。2年間の浪人生活のおかげで、今、ようやくその厳しさがひしひしとわかってきました。



安定したサラリーマン生活を捨てて、リスクのかたまりである政治家に立候補したのはなぜですか？ 政権交代しても、自分たちの生活は変わらないのではないのでしょうか？ 小沢さんってどんな人なんですか？……などなど、来られる皆さんには聞きたいことが一杯ありますし、今の政治に対して文句もたくさんあります。

こちらから一方的にお話しをして、「はい、さようなら」ではいけませんので、できる限り自分のスピーチは短くして、質問の時間を多く取るようにします。しかし、たいいては夜、仕事